

令和6年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 長泉町 （都道府県：静岡県）

1. 当該地域の情報（令和7年1月現在）

地域の課題	町ではこれまで日本語教室についての専門的なノウハウや知識を持つ人材がおらず、また、地域の外国人住民の困りごと等の声が行政に届く機会が少なかった等の理由により日本語教室を開設してこなかった。しかし、多文化共生社会の浸透や、コロナ禍により外国人住民の困った声を聞く機会が増えたことにより、日本語教室の必要性が認知された。日本語教室を開設することにより、日本語の習得はもちろん、教室を通して、外国人住民のニーズを把握し、困りごとを解決していくことで、外国人住民にとっても住みやすいまちを目指す。
在住外国人数 外国人比率	【在住外国人数】598人 【外国人比率】1.3%
在住外国人の状況	【主な国籍と人数】ベトナム136人 中国100人 韓国73人 フィリピン64人 ミャンマー40人 ブラジル33人 ネパール30人 インドネシア25人 英国11人 タイ11人 ※上位10件まで 【在留資格】永住者175人 特定技能1号70人 技術・人文知識・国際業務59人 技能実習2号ロ53人 家族滞在40人 技能実習1号ロ36人 日本人の配偶者等35人 定住者23人 留学23人 企業内転勤9人 ※上位10件まで 【滞在年数・在留期間などの状況】 外国人数について、2年間で約120人増加した。特に、ベトナムとミャンマー国籍の増加が顕著であった。在留資格では、特定技能1号、技能実習1号の数が大きく増えた。
在住外国人の 日本語教育の現状	日本語を学びたい方がいるが、仕事のため時間的余裕がない等の理由により日本語を学べていない方がいる。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	3年目
事業の目的	長泉町が目指す「ちょうどいいが いちばんいい Nagaizumi」をコンセプトに、日本人も外国人も、誰もが暮らしやすい、住みここのいいまちづくりを進めていくため、日本語教室を開設した。 地域のリソースを生かしながら、日常生活についての情報交換や共有、また地域住民とのつながりをつくりながら、日本語を習得できる対話交流型の教室を目指した。
事業の概要	日本語教室を開設し、今後も継続的に教室運営ができるよう、地域人材の育成、住民へ日本語教育の必要性の周知に取り組んだ。 〈長泉町の背景〉 町は企業誘致等外から人を受け入れる際、地元住民との交流を図る等、新しい住民と既存の住民の共生を意識して取り組んできた。また、子育て支援を中心に「誰もが暮らしやすいまちづくり」を行っており、公民館活動や市民活動等も盛んな地域である。このような特徴を生かして、外国人住民も含めた暮らしやすいまちづくりとして、日本語教育の必要性を住民に理解してもらうと共に、住民も巻き込んだ日本語教育体制の構築を目指した。
事業の対象期間	令和6年4月～令和7年3月
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	・コーディネーター（日本語学校に勤務）と指導者の発掘 ・地域日本語ボランティア養成講座の開催（教室開始前後各1回） ・日本語教室の開催（全6回） ・日本文化体験の開催

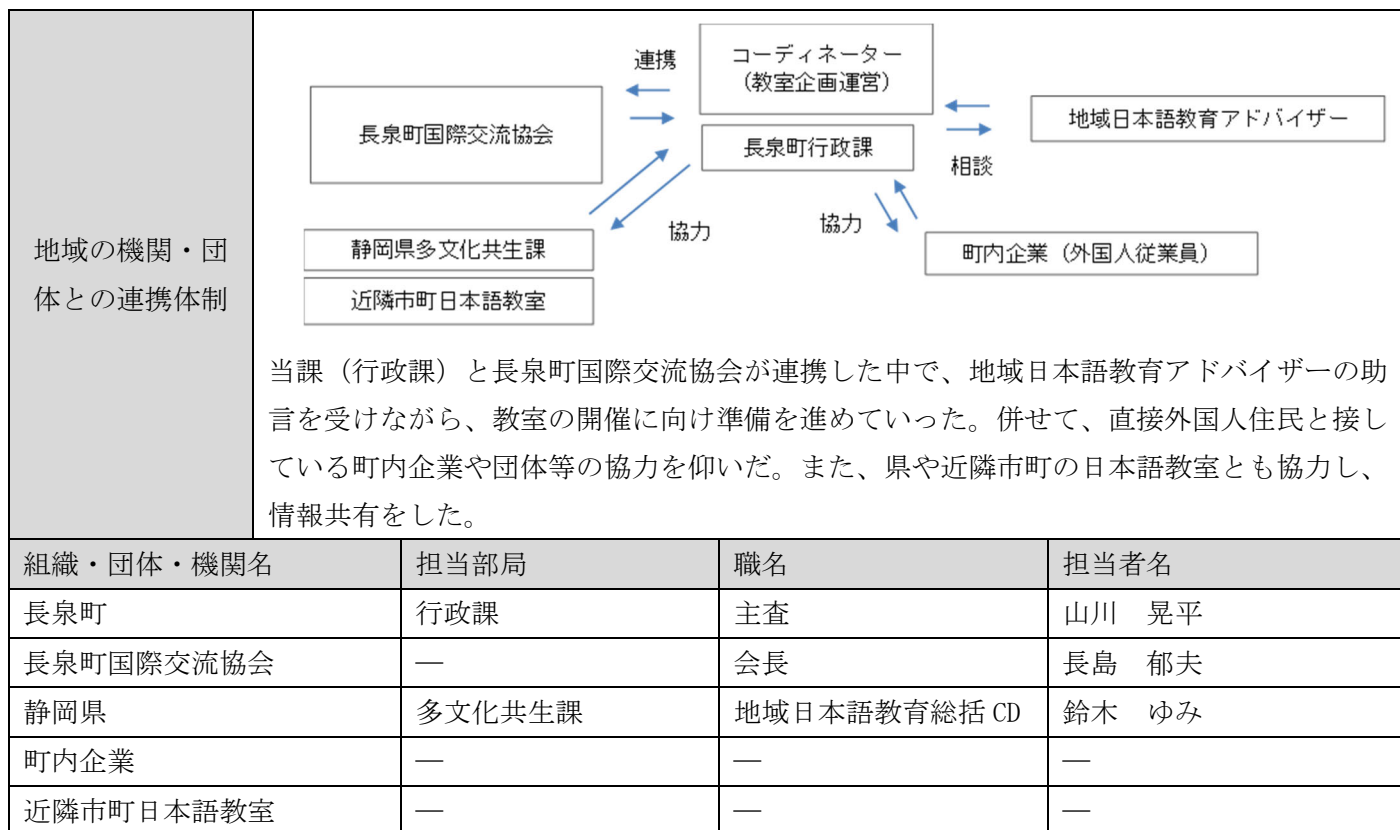
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	山川 晃平	長泉町行政課	主査	教室内容企画・準備・運営、広報
	西村久美子	Grandeur 株式会社		教室内容企画・準備・運営、連絡調整
	浅香 盟子			教室内容企画
	川嶋 あずさ			教室内容企画
	風晴 康子			教室内容企画
	近藤 佳子			教室内容企画
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	島田 徳子	武蔵野大学	教授	継続 ・新規（ 3 年目）
	磯村 美保子	公益財団法人 名古屋 YWCA	名古屋 YWCA 学院日 本語学校校長	継続 ・新規（ 3 年目）
	長尾 晴香	一般社団法人 ViVarsity 株 式会社 link design lab	代表理事 代表取締役	継続 ・新規（ 3 年目）

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

（1）地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制	当課（行政課）が中心となり、地域日本語教育アドバイザーに相談し、助言を受けながら、コーディネーターと共に継続的な日本語教室が運営できる体制を整えていった。 また、当町の教育委員会（外国人生徒）、生涯学習課（地域学校コーディネーター）、住民窓口課（外国人住民登録）等と情報を共有し、教室への参加を促していった。 長泉町国際交流協会には、日本語指導者等、サポーターの人材発掘・育成に対する協力を依頼した。 県多文化共生課にも、地域のキーパーソン等の情報共有について協力を依頼すると共に、サポーター養成講座の講師として、県が公表している教材等の活用について講話を行った。		
	所属（担当課）	職名	担当者名
	長泉町行政課	主査	山川 晃平
	長泉町国際交流協会	会長	長島 郁夫
	静岡県多文化共生課	地域日本語 教育総括 CD	鈴木 ゆみ
	長泉町教育委員会		
	長泉町生涯学習課		
	長泉町住民窓口課		

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの 主な活動	アドバイザーによる 助言・指導
令和6年 4月			
令和6年 5月	ニーズ調査 第1回アドバイザー会議	ニーズ調査（町内企業ヒアリング調査含む） アドバイザー会議参加	事業計画について検討
令和6年 6月	ニーズ調査 第2回アドバイザー会議	ニーズ調査（町内企業ヒアリング調査含む） アドバイザー会議参加	事業計画について
令和6年 7月	第3回アドバイザー会議 地域日本語サポーター養成講座 の内容検討	アドバイザー会議参加	教室内容について 地域日本語サポーター養成講座について
令和6年 8月	地域日本語サポーター養成講座 開催 日本語教室内容検討	地域日本語サポーター養成講座コーディネート 日本語教室コーディネート	
令和6年	第4回アドバイザー会議 日本語教室（1回目）開催	アドバイザー会議参加 日本語教室コーディネート	日本語教室について

9 月			
令和 6 年 10 月	日本語教室（2、3 回目）開催	日本語教室コーディネート	
令和 6 年 11 月	第 5 回アドバイザー会議 日本語教室（4、5 回目）	アドバイザー会議参加 日本語教室コーディネート	サポーター研修について
令和 6 年 12 月	第 6 回アドバイザー会議 サポーター研修（学習者との対話） 日本語教室（6、7 回目） 情報交換会	アドバイザー会議参加 日本語教室コーディネート 情報交換会参加	サポーター研修について スタートアップ報告会について
令和 7 年 1 月	日本語教室（8 回目） スタートアップ報告会	日本語教室コーディネート スタートアップ報告会コーディネート	
令和 7 年 2 月	第 7 回アドバイザー会議	アドバイザー会議参加	事業報告書の内容について
令和 7 年 3 月			

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	にっち長泉 ～またきたい えがおでつながる みんなのホーム～						
外国人参加者について	〔国籍〕 フィリピン 9 名、ベトナム 6 名、アメリカ 3 名、中国 2 名、韓国 2 名、インドネシア、ミャンマー、アルジェリア、スウェーデン、シンガポール、日本人各 1 名 〔属性〕 技術・人文知識・国際業務、定住者、日本人の配偶者等が主な対象						
参加者数 (内 外国人数)	受講者 延べ 105 名 (平均 13 名/1 回) 支援者 延べ 144 名 (平均 18 名/1 回) (日本語指導者 2 名、指導者補助 2 名、サポーター 40 名)						
開催時間数	総時間 12.5 時間			内訳 1.5 時間×7 回、2.0 時間×1 回 ※当初 9 回の予定だったが、大雨の影響で 1 回中止した。			
開催頻度	2 回/月						
目標	教室の目指す方向について、関係者全員が共通認識を持って教室活動にあたる。 学習者の参加しやすい環境をつくる。						
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2024 年 9 月 29 日(日) 13:30～15:00	1.5	長 泉 町 役 場	22	オリエンテーション、自己紹介	・主催者あいさつ ・レベルチェック ・教室趣旨の説明 ・「自己紹介」をテーマに対話交流	日本語指導者 2 名 サポーター 25 名
2	2024 年 10 月 13 日(日) 13:30～15:00	1.5	長 泉 町 役 場	13	食べ物	・アイスブレイク ・「食べ物」をテーマに対話交流	日本語指導者 2 名 サポーター 21 名
3	2024 年 10 月 27 日(日) 13:30～15:00	1.5	長 泉 町 役 場	14	休みの日	・アイスブレイク ・「休みの日」をテーマに対話交流	日本語指導者 2 名 サポーター 19 名

4	2024 年 11 月 10 日 (日) 13:30~15:00	1.5	長 泉 町 役 場	17	買い物	・アイスブレイク ・「買い物」をテーマに対 話交流	日本語指導者2名 サポーター12 名
5	2024 年 11 月 24 日 (日) 13:00~15:00	2.0	長 泉 町 役 場	14	産業祭へ行こう (体験)	・産業祭に参加 ・体験したことについて対 話交流	日本語指導者2名 サポーター15 名
6	2024 年 12 月 1 日 (日) 13:30~15:00	1.5	長 泉 町 役 場	7	地震の備え (体 験)	・避難の仕方や非常食につ いて ・「地震の備え」をテーマ に対話交流	日本語指導者2名 サポーター17 名
7	2024 年 12 月 15 日 (日) 13:30~15:00	1.5	長 泉 町 役 場	10	年中行事	・アイスブレイク ・「年中行事」をテーマに 対話交流	日本語指導者2名 サポーター14 名
8	2025 年 1 月 19 日 (日) 13:30~15:00	1.5	長 泉 町 役 場	9	書道 (体験)	・書道体験 ・書いた文字について対話 交流	日本語指導者2名 サポーター21 名
9							
10							

【主な活動】



食べ物をテーマに対話交流



町防災センターを見学 (第6回)



書道をテーマに対話交流
好きな言葉を書きました。

教室の立ち上げ に係る問題とそ の対応策	・人材育成 (CD、指導者等) → 県の養成講座への参加を促す。また、教室を継続していきながらレベルアップを目指す。 ・運営の安定化 (予算化) → 町と委託事業者との連携 ・教室ルールの明文化 → サポーター養成講座で共有 ・サポーターのスキルアップを継続的に行う
----------------------------	--

(3) その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
地域日本語サポーター養成講座 (全2回)	令和6年8月24日 13:30-16:00 (2時間30分) 令和6年8月31日 13:30-16:00 (2時間30分)	日本語教室で、外国人学習者を支援するサポーターを対象とした講座を開催 (参加者 32 人) 【内容】 1 回目 ・町の外国人の現状 ・対話交流型の教室とは ・教材等の説明 ・体験ワーク 2 回目 ・ワークショップ ・本年度の教室の概要 ・キャッチフレーズを決めよう

スタートアップ報告会	令和7年1月19日 15:40-16:40 (1時間)	本プログラムの最終年度となることから、3年間の取組について報告会を開催(参加者30人) 【内容】 ・2年間の取組報告 ・関係者座談会 (学習者2人、サポーター2人、指導者等2人、行政1人) ・アドバイザー統括
------------	-----------------------------------	---

【主な活動】



地域日本語サポーター養成講座



スタートアップ報告会

5. 今年度事業全体について

事業推進にあたり問題点と対応策	まだ、教室を開設して2年目ということもあり、教室が安定的に運営できるよう指導者やサポーター等の人材育成を継続して行う必要がある。
成果	(1) 域内の日本語教育の提供状況 ①日本語教室の立ち上げ ☐ 立ち上げが終わっていない ☒ 立ち上げが終わった ☐ 運営の安定化が実現した ②日本語教室の特徴 多文化共生の一環として、対話交流型の日本語教室を実施。 日本語を学ぶことはもちろん、地域とつながることができる居場所としての役割を兼ねている。 (2) その他の取組の状況 ・前年課題であった0レベルの学習者に対する対応を行った。 ・教室活動がメディアに取り上げられ、企業からも問い合わせがあった。 ・第5次長泉町総合計画の素地があり、教室の開催ができ、今後の予算化の見通しが立った。 ・静岡県为先駆者的な役割を果たすことができた。 ・教室名「にっち長泉」とキャッチフレーズを、サポーターも交え決定し、教室の理念を共有することができた。 ・産業祭や地震防災等、体験行動をテーマに取り入れたことによって、教室外とのつながりを作ることができた。 ・参加した学習者から、子どもに関するニーズを把握することができた。
地域の関係者との連携による効果	町内の自治会長に、日本語教室の取組について周知した。 町内企業に、日本語教室の参加について協力を呼び掛けた。
コーディネーターの主な活動	①ニーズの調査(20H) ②体制整備のための調整(20H) ③人材育成のための調整(20H) ④日本語教室開設及び運営のための調整(300H)

アドバイザーの 主な助言	・スタートアッププログラム終了後も、安定して継続できる教室を目指すため、サポーターの育成やCD、指導者との連携を取ることを。 ・サポーターや地域の人を巻き込んだ教室づくりとなるよう、参加者の声を拾い、教室に反映させること。
今後の課題	・子どもたちの支援について、関係課に情報をつなげる（特に小学生） ・組織化と教室ルールの明文化 ・母語支援者の獲得 ・教室継続するための体制整備 ・教室の周知（学習者だけでなく、住民や企業） ・指導者の育成研修
今後の予定	（１）今後の日本語教育事業の展開について ①日本語教室の展開 年10回の教室を行う。 ②日本語教室の実施主体と行政の関与について 今後も行政が主体となり、教室を継続していく。 ③財源の確保について 令和7年度予算の確保済み （２）今後の予定（取組等） 委託事業者と協議し、サポーター養成講座と教室を開催する。

本件担当： 長泉町行政課地域協働チーム